

# スローテンポ通信

第 60 号

2022年10月15日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

## ◎いま注目の本

### ○『トーカーサバイバー』

二文字屋脩編著 うつつ堂 2022年

☆☆☆☆☆

ホームレスの話を書く中で、ホームありの側の盲点を探る。ホームイデオロギーから読者を解放し、ホームレスから学ぶべきことを教えてくれる。

小さな出版社の熱心につくられた本、既存の枠組みからはみだした本だから、スローテンポ書店は見逃さないで、積極的に紹介する。

### ○『若者たちのBC級戦犯裁判

さまよう責任と埋もれた無念』

野見山 剛 dZERO 2022年 ☆☆☆☆☆

自分と同じ若者たちが、訳もわからず処刑された。共同通信の記者が、何としても事実を知らねばと思い、過去の情報と記録を追い求めた。

## ◎ 参加するだけで、本を読みたくなる

### 本を読まない人の読書会(第4回)

10月22日(土) PM3:00~5:00

驚きの発言があると、みんな考えます。

考えるから、他人の意見も聞きます。

さて、あなたは考えるでしょうか。

参加無料、発言自由、出入り自由、途中退出もOK。

### 今回紹介する本:

モナリザにスプレーした女の物語

『凜として灯る』 荒井裕樹著

現代書館 2022年 1800円+税

先輩の言葉「あなたには怒りが足りない！」が契機となった。

☆ 紹介者が本を紹介し、参加者が自由に話し合います。今回は1冊だけにして、話し合いにたっぷり時間をかけます。

とんでも発言歓迎!

## 《本を読まない人の読書会》 ご招待 その2

「なぜ本を読まないの?」と問いかければ、様々な理由が述べられます。

「忙しくて暇がない」「スマホの方が早い」「便利だ」「読みたいけど、目が疲れる」「リタイアしたら、読書も楽しむ」

そんなのは言い訳です。本当の理由は、本を読むメリットがないと思っているからでしょう。

学校は、読書の喜びを教えてくださいません。口先で読書の大切さを並べ、読書感想文の宿題を出すだけです。

生徒たちは、それに疑問を抱きません。お決まりの将来目標が与えられていて、ひたすら努力するか、あきらめた人は脱落コースに向かいます。

将来何をしようかという模索がなくなりました。友人との付き合いも希薄になり、人生を語り合うこともありません。

人生の模索がないのは、与えられた人生以外を知らないからであり、知る機会すらないのです。

成功するか敗北するかは、重要な情報をつかめるかどうかにかかっており、それは早い者勝ちです。だから血眼になって情報を求めます。

読書とは、著者と読者のコミュニケーションです。単に知識を得るだけでなく、生き方を学び、それを自分のものにするのです。

情報を貯め込むのではなく、ものの見方考え方を学習するのです。

学習は、人と人との血の通ったコミュニケーションを通してこそ可能であり、デジタル媒体では困難です。読書は、読み方次第で、直接会わなくても著者の考え方を学べるのです。

もちろん、本の読み方にはいろいろあります。斜め読みして、何が書かれているかをチェックだけすることもあります。

そのような読み方を否定するわけではありませんが、そんなことならデジタル媒体でも可能です。

読書に特有の素晴らしさとは、いつでもどこにいても、直接会っているかのように、著者と対話ができることです。読書とは、著者と読者の、人間対人間のコミュニケーションといえるでしょう。

だから、著者の語りかけに対し、「えっそこはちょっと違うんじゃない?」と、読者が著者に問い返すこともあります。

ところが、日本では、コミュニケーションの一方通行が当たり前で、双方向の対話文化が育っていません。

日本の読書案内や書評では、本に対する批判はタブーとなっています。日本の読書は、「押し付けを黙って受け入れよ」という姿勢なのです。それが、日本の読書をつまらないものにしました。

批判がないから、反省も発展もありません。だから、ウケねらいのつまらない本ばかりがますます増えます。それが日本の本離れに拍車をかけます。

人と人とのコミュニケーションは、双方ともに積極的な姿勢がなければ成り立ちません。話し手は訴えたいことをきちんと述べ、聞き手は内容を理解しようと努めなければなりません。

本には、著者の訴えたいことがわかりやすくまとめられています。読書とは、それを読み取り、自分のものにするのです。真剣に挑まなければ、著者の考えを知ることはできません。

だから、受身の姿勢では読書の価値に気付くことはありません。

《本を読まない人の読書会》は、たとえ受身であっても、参加するだけで、本を読みたくなる、と案内しています。

読書は受身じゃダメだが、この読書会は受身でもよい。どういうことでしょう。

この読書会を3回やってみて、わかったことがあります。本を読まない人には、自分の意見がない、言えない、考えられない、という共通点があります。

本離れの最大の要因は、日本人が考えなくなった点にあるようです。

ということは、考えるようになればよいのです。考えさえすれば、さらに考えるために読書につながっていくのです。

読書会で驚きの発言があれば、参加者は考えます。考えるから、他人の意見をもっと聞きたくなります。他者に対する好奇心が生まれるのです。

驚き、好奇心、考えるの3つがそれぞれ刺激し合って、さらに考えるようになります。そして本を読みたくなるのです。

ウンだと思っ方は、どうぞ参加してみてください。(ブログから抜粋)



本好きも本嫌いも  
本の良さを再発見する本屋!

スローテンポ書店

小山駅西口 ロブレ地階

営業: 火~土 13時~19時

(日月祝日休み)

消毒や換気をして、営業しております。

## ☆ 懇話会

ここで悩みや困りごとを話せば、ふしぎと元気になります。自然に他の人にも興味が沸きます。どなたも歓迎!

土曜日(第4土曜日を除く)午後3時~5時、参加無料。

## ☆ 伝わる文章教室

文章は最も正確で直球の表現手法です。この講座は、文章の苦手な人が自分を表現する場です。伝えたいことがきちんと伝わることを目指します。書店に作品集があります。

木曜日 午後3時~5時。